

平成 30 年 1 月 15 日

平成 29 年度市町村議会議員研修報告書

下関市議会議員 江村 卓三

日 時：平成 30 年 1 月 11 日～1 月 12 日

場 所：全国市町村国際文化研究所（滋賀県大津市）

研修内容： 防災と議員の役割

(1 日目 13:00～14:30)

「地域防災力を向上させるために」

明治大学大学院 特任教授 中林 一樹

前段の話として、21 世紀の荒ぶる自然災害（地震、台風、豪雨など）と脆弱化する地域社会（高齢化社会、外国人が激増する国際社会など）からくる災害についての話があり、その中で災害に強い地域・都市を実現する「防災力」について講義がありました。

- 1) 二つの危機管理（リスク管理・クライシス管理）と防災
- 2) 防災対策の構成と危機管理
- 3) リスク管理としての災害予防
- 4) リスク管理としての情報認知と早めの対応
- 5) 危機管理としての災害対応
- 6) 危機管理としての応急復旧
- 7) リスク管理としての災害復興

上記の講義を聞き、では、地方議員は防災対策として何をすべきかを問われるなかで、さらに講義を受けた。

○災害時等での議員としての心構えは。

- ・地方議員は、公人である前に、住民である。
- ・災害時の活動は、平時以下でも、平時以上でもない。（平常心で対応）
- ・地域防災計画、災害活動マニュアル、BCP（業務継続計画）を十分理解す

る。

- ・平時も、発災初動期も、住民の目線、女性の目線で活動する。
- ・発災3日間は、住民として活動する。
- ・議員としての活動には、会派連携の体制づくりを。
- ・何事にも、公平・平等・公正が災害対応の原則。
- ・行政を支援し、住民を支援する。(職員も、住民も被災者)
- ・復旧・復興期から、執行部(行政)に対するチェック機能をする。

以上のように、議員と市民の活動には違いがあることとその心構えを忘れないで対応することを学んだ。

(1日目 14:45~17:50)

### 「平時の防災」「平時の防災と議員の役割(演習)」

跡見学園女子大学 教授 健屋 一

前半は、平時の防災と言うことで、東日本大震災での事例(岩手県宮古市の大津浪記念碑など)を交え、自然の恐ろしさを伝える先祖の知恵の紹介から始まり、地域防災計画の課題についての講義を受けた。

演習は、講義を受けた内容を踏まえ、東日本大震災での宮城県東松島市議会議員の行動文面を読み、ワールドカフェ方式(4人一組で協議をし協議後、一人を残して他のテーブルへ分散しながら、多くの意見を集約する方法)で討議し、議員自ら何をすべきかを考えた。

議員として何をすべきかわからない中での討議であったが、いろいろな角度からの意見が聞け、そこまで必要かなどと有意義な時間となった。

(2日目 9:25~12:00)

### 「災害時の議員の役割(演習)」

跡見学園女子大学 教授 健屋 一

先日に引き続き前半は、東日本大震災時の行動対応の話があり、「誰が逃げる

と伝えたのか」「誰が逃げるのを支援したのか」など、生々しい現場の状況報告があった。すべてにおいての第一位は、家族・同居者であり、その次が近所・友人であった。しかし、その次に支援された福祉関係者や消防・消防団の方は、日頃の仕事として責任のうえで対応されたため犠牲者となられた方も多かったとのこと。

そのうえで、議員は何をしたら良いのか。日頃、考えることのなかった案件で大変むつかしい問題であったが、これからの行動に一步二歩前進することができた。

後半は、岩手県大槌町の災害対応で総務部長の話を読み、ワールドカフェ方式で討議を行った。

(2日目 13:00~14:10)

「熊本地震直後、復旧、復興期における議員の役割」  
熊本市議会議員 小池 洋恵

体験談の話がありました。

議員になられる前(3年前)は、NPOの仕事をしてきた関係もあり、現場での対応がリーダー以上の話であった。(凄いの一言)

しかし、リーダーとしての話は、大いに議員としての行動に参考となった。

(2日目 14:10~15:00)

「今後の展望」  
跡見学園女子大学 教授 鍵屋 一

今回の研修を受け、災害の少ない下関市民としては、災害に備える意識が大いに必要と感じました。その中で、議員としての役割も確立する必要があると感じました。